

スペイン語講座(IV) 無人称表現について

今回の号では無人称の表現を扱います。そもそも無人称とは何でしょうか。

既にご存知のようにスペイン語の動詞は原則、6通りに変化します。

例えば、comerだと

現在形でcomo, comes, come, comemos coméis, comen

過去だとcomí, comiste, comió, comimos, comisteis, comieron

と主語をつけなくても6通りの語尾変化から「私」、「君」、「彼」…、がわかってしまいます。

一方、日本語では人称による変化はありません。もともと敬語による言い換えはあるので、一部の動詞では主語が推測されてしまうことはあります。例えば、申しますと言えば「私が」で、「仰いました」と言えば、「目上の人」などと考えられることはあります。

話を戻しまして、基本的には日本語の動詞は主語に関しては「無色」なので、わざわざ主語を言わなければ自動的に無人称の文になります。スペイン語でこの「無色感」を出すにはどうしたらよいのでしょうか。いくつかの方法があります。簡単なものからどうぞ。

Tienes que limpiar la habitación.

(君は部屋を掃除しないとイケない。)

Hay que limpiar la habitación.

(部屋を掃除しないとイケない。)

《Tener que + 不定詞》と《Hay que + 不定詞》は「～する必要がある」と同じ意味です。しかし、前者は活用をしなければならないのに対して、後者は活用がありません。つまり、「誰かが部屋を掃除しないとイケない」と言っている無人称なのです。もともと、他に第三者がいないシチュエーションでこのように言われると、「お前が掃除しろよ」と言われているようでカチンとくるかも知れませんね。

次に簡単なのは英語と同じですが、《3人称複数》を使ったものです。

Dicen que va a nevar esta tarde.

(今日の午後雪が降るそうだ。)

あえてellosなどを入れないで動詞だけにするのがポイントです。もちろん、動詞の活用形からは「彼ら」とか「彼女ら」などの形なのですが、それがわからないので、「一般に」とか「人々は」という意味が感じられるのです。

「一般に人々は～と言っている」→「～そうだ」となります。

もうひとつ例文です。

Me han robado la cartera. (私は財布を盗まれた。)

文法的には、「彼らは私に対して財布を盗んだ」なのですが、主語は言っていません。

つまり、「誰かわからない彼らが私に対して財布を盗んだ」

→「私は財布を盗まれた」となります。

この場合の3人称複数「人称臭さを消す手段」ですから、実際には泥

棒が1人だったと思っていなくてもあえて3人称を使うのです。

Llaman a la puerta. (誰かが玄関で呼んでいる。)

ここでも同じことですね。宅配便配達の人通常1人です(特に大型の荷物を除いて)。でも、1人だと思っていでも「誰かが呼んでいる」時は3人称複数を使います。

次なる手段が、《se + 3人称単数》です。

これは、se受身と似ていて曖昧です。この2つを混同してしまい、よく違いがわからないという質問が多いのですが、実はそれで当たり前なのです。違いは、受身の方は《se + 3人称単数・複数》と動詞の活用が3人称複数でもあり得る点です。例文を見ていきましょう。

En este restaurante se come bien.

(このレストランはおいしい。)

よく初級の教科書で見かける例文です。Se=「人々は」と考えればわかりやすいですね。

「人々はこのレストランで旨く食べる」→「このレストランはおいしい」

目的語をとまうこともあります。

Anoche se conoció a los nuevos ministros del tercer Gobierno de Kan. (昨夜、第3次菅内閣の新閣僚がわかった。)

この例では、seは「人々は」です。se受身ではないのかと思った人はいませんか。残念でした。よく似ていますが、主語が見当たらないので違います。a los nuevos ministrosと目的のaがついているので。もし受身にしたいければ、aを取って主語にし、動詞を主語に合わせて複数にします。se conocieron los nuevos ministros... ただ、お勤めはできません。se conocieron los nuevos ministros...だと「新閣僚たちはお互いに知り合った」という意味にもなってしまい、曖昧だからです。

その次は、《uno》を使ったものです。unoは数字の「1」ですが、ここでは「1人の人」です。ですから女性形unalになることもあります。

Con el paso del tiempo uno se acostumbra a todo.

(時間が経てば人は何にでも慣れるものです。)

ここでは、se無人称は使えません。もともと「慣れる」がacostumbrarseと再帰なので、seを使おうとすると、*se se acostumbra...となってしまうからです。

また、unoは自分のことを暗示していることがあります。

Uno nunca se aburre contigo.

(君となら誰も退屈しないよ。)

この例では、「誰も」とは言っていますが、本当は「自分は」(Yo no me aburro...)と言いたいのかもかもしれません。テレ隠し?

最後に、《túの無人称》を見ておきましょう。この用法は文脈により判断するしかありません。

- *Nunca he estado en Sevilla, pero eres de ahí, ¿no? ¿Qué tal en verano?*

(セビージャには行ったことないけど、君はそちらの出身だろ?夏はどう?)

- *Pues hace un calor que te mueres.*

(まあ、死にそうなくらい暑いよ。)

Si metes el gol y ganamos, eres un héroe y te aplauden. Pero si fallas, te abuchean.

(ゴールを入れて勝てばヒーロー、大喝采。でもハズせば、ブーイングだぜ。)

túを無人称的に使うと、聞き手を話に引き付けるような効果がありますね。

また、túが暗黙のyoを指していることもよくあります。最後の例はまさにそうですね。話し手はあるサッカー選手でスポーツ雑誌のインタビュアーに向かってしゃべっています。

Si yo meto el gol y ganamos, soy un héroe y me aplauden...と言い換えればわかりやすいでしょう。

スペイン語の無人称表現はまだあります。

でも時間が来たようなので今日はこれくらいで。 ¡Hasta la vista!



仲井邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授・スペイン語部会長。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『コミュニケーションのためのスペイン語』(第三書房), 『中

級スペイン語一文法と演習』(同学社)などがある。

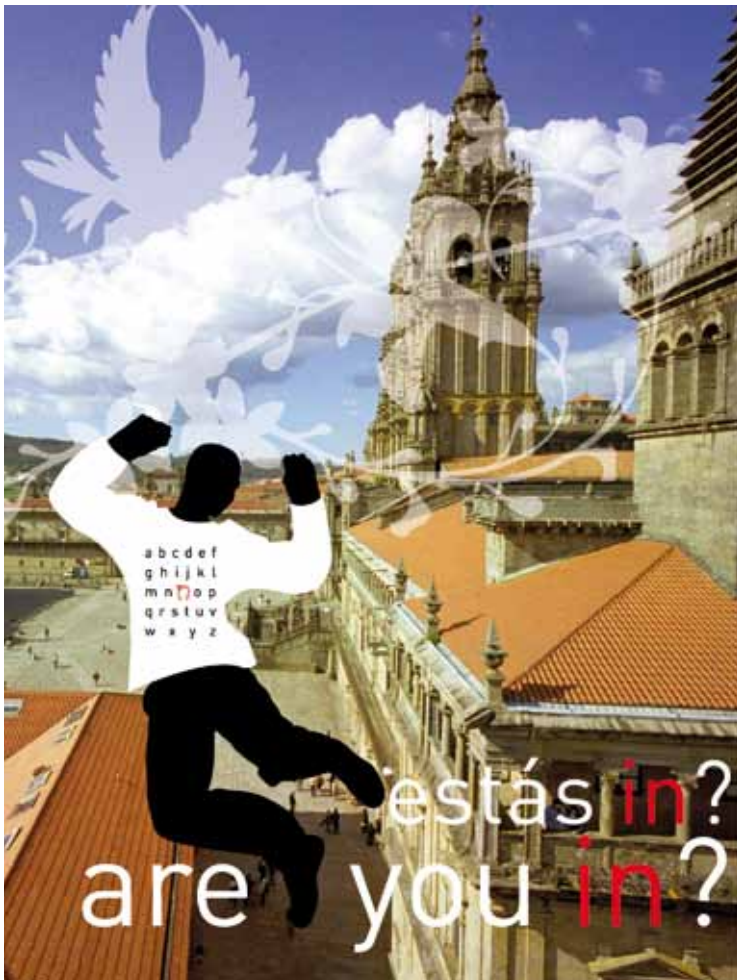


スペイン語学習テキスト
お問合せはアデランテまで。

スペイン
中南米への
留学相談
入学手続き
無料サポート!

06 - 6346 - 5554

www.spainryugaku.jp



楽しくて、住みやすい歴史ある大学都市でスペイン語を勉強してみませんか?

サンティアゴ・デ・コンポステラは、そんなあなたにピッタリの街です。

サンティアゴ・デ・コンポステラ大学は、500年以上の長い歴史を持ち、質の高いスペイン語プログラムで評判の高い教育機関の1つです。

経験豊富な講師陣と多彩なコース内容で、直接スペイン文化に触れながらスペイン語を学ぶとない機会に、素晴らしい経験を保証いたします。

学生ひとりひとりのニーズに合ったコースが選べるように様々なコースを提供します。一年を通して学習できるコースの一部は下記のとおりです。

- スペイン語・文化コース
- 個別対応コース：商業スペイン語、スペイン語と健康科学、スペイン語と環境学、食文化とスペイン語、観光とスペイン語、サンティアゴ巡礼コース

さらなる詳細については、インターナショナル・コースのホームページwww.cursosinternacionales.usc.es (日本語) をご覧いただくか、linguas@usc.esまでご連絡ください。

サンティアゴ・デ・コンポステラ大学、インターナショナル・コース事務局
Avda. Das Ciencias, chalet Nº 2. Campus universitario sur
E-15782 Santiago de Compostela. España
www.cursosinternacionales.usc.es . linguas@usc.es
Tel: +34 981 597 035 Fax: +34 981 597 036

